

---

# お嬢様の憂鬱 中

瑠紀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お嬢様の憂鬱 中

### 【Nコード】

N7924D

### 【作者名】

瑠紀

### 【あらすじ】

婚約者と結婚したくないために、瑠斗に結婚を約束むりやりさせた璃紗。しかし、次第に瑠斗に惹かれ好きになってしまふ。しかし、自分の過去を瑠斗に押し付けたくない、自分の過去を知って瑠斗に嫌われたくない、と悩む。。。

## 第1話 お嬢様の憂鬱（前書き）

このお話は、お嬢様の憂鬱 上の続きです。

## 第1話 お嬢様の憂鬱

「うわッ！ーお、おはようございますッ！」

・・・これはどういう状況かしら。

目をあけると、瑠が私の隣で私の顔をじーっとみていた。

「私の顔になにか付いていて??」  
わたくし

・・・自然とお嬢様口調になる。これが自の喋りかただし。

「い、いえ！ーなにも!」

では、なんのために？

そう、聞こうと思っていた。

のに、先にりゅうが喋りだした。

「あの、何の夢、見ていたんですか??・・・」

へッ・・・?そーいえば、私、なんの夢見てたっけ。

よくあるよね。

起きると自分の見ていた夢が思い出せないって奴。

「………忘れた。」

「そうですか。それはよかった!」

そういつて、りゅうはまぶしいくらいの笑みを見せた。

「何で??」

気になった。

なんで、そんな笑みを浮かべられるのか。

なんで、私の夢ごときに表情豊かに心配してくれるのか。

ああ、いつから私はこんなに憂鬱な気分になっていたのだろうか。

「実は、璃紗さん寝てるとき、泣いていたんです。」

へ!?!私が、ナイテイト?

「それで?」

ああ、なんでこんな言い方になるのさ。

意識しないように意識すると、前の自分みたいな言い方が出来ない。

「はい!やっぱり、泣くような夢は覚えてない方がいいでしょ?」

……ああ。やっぱり貴方は、とても優しい……

余計に、貴方と私の距離は遠くなる。

いつまでも、過去にこだわってちゃダメなんだ。

昔の自分なら、なんて考えるだろう。

ああ、きっと、こう言っただろうな。

「りゅうくんに、早く相談しなくちゃ!!」って。

そうだ。

前向きなころの私だったら、

りゅうくに何でも打ち明けてしまっただろう。

それが、告白じゃない事ならば、だが。

しかし、この方法、告白にも使えそうだ。

ゴメンナサイ。りゅうくん。

私には、この荷は、重過ぎました。

だから・・・助けを求めてもいいですか？

この荷をいっしょに抱えてと、言ってもいいですか???

・・・・・・伝えたい。

決心は、想いへと変わっていった。

「ねえ、りゅうくん・・・・・・」

## 第2話 僕の正直な答え（前書き）

あー、久しぶりに更新しました テヘッ（死

自分で言うのもなんなんですが

サボってました。（あ、バージョンアップして帰ってきたよー！と  
か、いうと思った？（死

これからは、こつこつと……

やれるかなw

がんばりますね、亀スピードで（爆）



## 第2話 僕の正直な答え

「ねエ。溜クン。・・・話したいことがあるんだけど・・・」

私は、<sup>わたくし</sup>勇気を振り絞って、言ってみましたの。

・・・この口癖、溜ちゃんに嫌われるから、やめよう。

さあ、言うんだ。

あたしの今までのことを全部。

あたしの男関係を全部。

打ち明けて、そして・・・

好きといえたらいいな。

今のあたしに、そんな勇気はないのだけれど。

---

なんか、璃紗さんがとても辛そうだ。

ズキッ

??なんだ!!??痛い。。。胸が、痛い。。

「あ、あの璃紗さん、どうしたんですか？」

そんな顔をしないで。

そんな顔をされたら僕は・・・

ナニヲ イエバイイノダロウ・・・

僕は、何もできない。

璃紗さんのそのつらそうな顔を慰めることすらできない。

僕は、何もできないんだ。

結局、何も……

しかし、本当にそうであろうか。

僕は、璃紗さんの事を、知っているつもりだった。

でも、この状況で、それはいえない。

僕は、璃紗さんのことを知らなかったし、

知ろうともしていなかったのだ。

ならば……

僕の頭で、いろいろな考えが編み出されていく。

そして、僕の口から出た答えとは

思いもよらず、

その言葉を発した僕自身が驚いた。

「璃紗さん……あなたの考えていることを、知りたい……」

L

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7924d/>

---

お嬢様の憂鬱 中

2010年10月20日17時47分発行